

公 示

準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の需給状況の判断結果について

平成26年1月24日付け中国運輸局公示第78号「準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化の推進のために監督上必要となる措置等の実施について」に基づき、一般乗用旅客自動車運送事業の需給状況の判断結果を下記のとおり公示する。

なお、需給状況の判断結果の算定基礎数値は、別紙のとおりである。

令和6年8月30日

中国運輸局長 金子 修久

記

令和6年度における需給状況の判断結果

県	営業区域（交通圏）	必要車両数（両）	令和5年度末車両数（両）	増加可能車両数（両）
広島	広島交通圏	1,422	2,627	▲ 1205
	呉市A	177	367	▲ 190
	東広島市	156	259	▲ 103
	尾道市	93	171	▲ 78
	福山交通圏	464	787	▲ 323
鳥取	鳥取交通圏	126	244	▲ 118
	米子交通圏	113	172	▲ 59
島根	松江市	184	349	▲ 165
	出雲市	126	218	▲ 92
岡山	岡山市	754	1,335	▲ 581
	倉敷交通圏	311	539	▲ 228
	津山市	56	117	▲ 61
山口	下関市	249	418	▲ 169
	宇部市	137	298	▲ 161
	山口市	135	253	▲ 118
	周南市	174	271	▲ 97
	防府市	75	122	▲ 47
	岩国交通圏	138	238	▲ 100

※ 上記「令和5年度末車両数」は、特定地域及び準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の適正化及び活性化に関する特別措置法（以下「タクシー特措法」という。）第2条第9項に定める事業用自動車（一般乗用旅客自動車運送事業（1人1車制個人タクシーに限る。以下「個人タクシー」という。）を除く。）の数である。

※ その他ハイヤー（道路運送法施行規則第四条第八項第三号の規定に基づき国土交通大臣が定める区分を定める告示（平成26年国土交通省告示第59号）第2号に規定するハイヤーをいう。以下同じ。）がある営業区域にあつては、算定した一般タクシー（タクシー特措法第2条第9項に定める事業用自動車からその他ハイヤー及び個人タクシーを除いたもの。以下同じ。）の必要車両数と平成26年1月27日現在の一般タクシーの車両数の乖離率を用いてその他ハイヤーの必要車両数を算定し、これを一般タクシーの必要車両数に加えて算定したものである。

附 則

- この公示は、令和6年8月30日から適用する。
- この公示は、令和6年度の準特定地域における法人タクシー（一般乗用旅客自動車運送事業（1人1車制個人タクシーを除く。））の新規許可申請、条件解除の承認申請、営業区域の設定に係る事業計画変更認可申請、増車に係る事業計画変更認可申請、休車の解除に係る事業計画変更認可申請及び個人タクシーの新規許可申請について適用する。
- 令和5年8月31日付け中国運輸局公示第42号「準特定地域における一般乗用旅客自動車運送事業の需給状況の判断結果について」は、令和6年8月29日限りで廃止する。

1. 広島県

(1) 広島交通圏

①一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
33,699,111	36,865,157	0.91

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷366÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
1,422	33,699,111	95,291,193	0.42	550,855	0.90

②その他ハイヤー

乖離率 a = (b - c) ÷ b	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.57	3,284	1,422

必要車両数 d - (d × a)	平成26年1月27日現在の その他ハイヤー車両数 d
7	17

(2) 呉市A

輸送需要量 A=B×C	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,780,748	3,031,123	0.92

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷366÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
177	2,780,748	7,832,458	0.40	65,973	0.90

(3) 東広島市

輸送需要量 A=B×C	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
3,735,473	3,918,450	0.95

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷366÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
156	3,735,473	8,134,218	0.49	54,947	0.90

(4) 尾道市

輸送需要量 A=B×C	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
1,773,520	1,902,233	0.93

必要車両数 A÷(D×E÷F) ÷366÷G	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
93	1,773,520	4,278,420	0.46	34,164	0.90

(5) 福山交通圏

①一般タクシー

輸送需要量 A=B×C	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
7,666,595	8,119,220	0.94

必要車両数 $A \div (D \times E \div F)$ $\div 366 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
464	7,666,595	18,405,766	0.45	163,617	0.90

②その他ハイヤー

乖離率 $a = (b - c) \div b$	平成26年1月27日現在の 一般タクシー車両数 b	一般タクシーの 必要車両数 c
0.50	922	464

必要車両数 $d - (d \times a)$	平成26年1月27日現在の その他ハイヤー車両数 d
1	3

2. 鳥取県

(1) 鳥取交通圏

輸送需要量 $A=B \times C$	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,461,844	2,641,178	0.93

必要車両数 $A \div (D \times E \div F)$ $\div 366 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
126	2,461,844	6,190,921	0.46	48,252	0.90

(2) 米子交通圏

輸送需要量 $A=B \times C$	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,652,192	2,845,527	0.93

必要車両数 $A \div (D \times E \div F)$ $\div 366 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
113	2,652,192	6,050,175	0.48	40,868	0.90

3. 島根県

(1) 松江市

輸送需要量 A=B×C	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
3,060,350	3,298,813	0.93

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 366 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
184	3,060,350	7,743,425	0.44	68,261	0.90

(2) 出雲市

輸送需要量 A=B×C	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,030,885	2,210,873	0.92

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 366 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
126	2,030,885	5,031,478	0.46	47,308	0.90

4. 岡山県

(1) 岡山市

輸送需要量 A=B×C	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
13,560,661	14,489,363	0.94

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 366 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
754	13,560,661	31,823,973	0.42	244,245	0.90

(2) 倉敷交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
5,596,354	6,038,356	0.93

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 366 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
311	5,596,354	13,187,871	0.47	113,636	0.90

(3) 津山市

輸送需要量 A=B×C	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
1,028,075	1,133,010	0.91

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 366 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
56	1,028,075	2,594,353	0.51	23,942	0.90

5. 山口県

(1) 下関市

輸送需要量 A=B×C	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
4,266,242	4,604,934	0.93

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 366 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
249	4,266,242	12,111,400	0.44	101,773	0.90

(2) 宇部市

輸送需要量 A=B×C	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,550,197	2,791,009	0.91

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 366 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
137	2,550,197	6,847,522	0.45	53,964	0.90

(3) 山口市

輸送需要量 A=B×C	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,590,540	2,773,415	0.93

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 366 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
135	2,590,540	6,361,779	0.46	49,996	0.90

(4) 周南市

輸送需要量 A=B×C	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,520,700	2,705,447	0.93

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 366 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
174	2,520,700	6,443,854	0.44	64,682	0.90

(5) 防府市

輸送需要量 A=B×C	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
1,422,536	1,540,289	0.92

必要車両数 $A \div (D \times E \div F) \div 366 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
75	1,422,536	3,586,554	0.45	28,291	0.90

(6) 岩国交通圏

輸送需要量 A=B×C	令和5年度の 総実車キロ B	直近5年間分の 対前年度比率の平均値 C
2,540,334	2,759,922	0.92

必要車両数 $A \div (D \times E \div F)$ $\div 366 \div G$	輸送需要量 A	総走行キロ D	実車率 E	延べ実働車両数 F	実働率 G
138	2,540,334	7,018,491	0.42	53,035	0.90

※「直近5年間分の対前年度比率の平均値」、「実車率」、「実働率」及び「乖離率」の数値は、小数第3位で四捨五入して記載しているため、必ずしも計算結果は一致しないことがある。